

歯痛地蔵（石棺仏・鎌倉期）が市指定有形文化財に

竜山石の古墳石棺材を利用、京都府下では唯一の資料 9月1日に告示

かねてから城陽市の貴重な文化遺産として、保存や指定を要望していました歯痛地蔵さん。市教委が文化財保護審議会の答申を受けて9月1日に市指定有形文化財に追加しました。

地元では石橋地蔵や歯痛地蔵として親しまれ、長らく寺田駅北側のトップセンター（跡地）に祀られて、地元の北西自治会五組の皆さん的手で祀られていたが、再開発により現在は芝ヶ原古墳に移設されています。写真はその様子です。左に見える立て看板には次のように説明されています。



石棺仏（芝ヶ原古墳 2025年5月撮影）

説明板 寺田石棺材（歯痛地蔵）

寺田石棺材は、古墳に納められていた家型石棺（いえがたせつかん）の底石です。兵庫県の加古川流域で産出する竜山石で作られています。納められていた古墳は明らかではありませんが、石棺の製作年代は6世紀末から7世紀後半と考えられます。後世に転用され、平坦面に地蔵菩薩坐像が浮彫りされた石棺仏として歯痛地蔵あるいは石橋地蔵と呼ばれています。地蔵菩薩坐像が掘られた時代は鎌倉時代と考えられます。石棺仏としては京都で唯一といわれる貴重な資料です。

大正時代には、寺田西ノ口を流れる小川の石橋として利用されていました。大正末期に取り外された後、数回の移転を経て寺田地域で祀られましたが、令和3年度（2021年度）に芝が原古墳整備地内移りました。 城陽市教育委員会・北西自治会五組



会では地元の貴重な文化財として見学会などを開催して多くの人に知って頂く行事を開催するほか、トド会員（故人）が深い関心を寄せ、芝ヶ原古墳に移転されてからは定点観測しておられました。また、和詞羅河9号（2024・5）に「寺田にあった歯痛地蔵（時空を超えた流転の地蔵）」として論文を寄稿されています。

20年秋 トップ跡の歯痛地蔵 その中で、人の都合で「居場所も変わっていった」歯痛地蔵は「劣歯痛地蔵（石棺仏・鎌倉期）が市指定有形文化財に／ 市辺天満宮 「お稻荷さんの柵修復」京田辺市 「平和のための戦争展」～2025～／ 南コミセンで 「平和と戦争を考える資料展」 8月1～10日／ 古川さん資料室・洛南艸舎再訪 9月9日／ 城陽市域を中心とした空襲と防空壕（中）／トウキのにつ帰 会の活動・短信 他